

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市ニッ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2375601016-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和3年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”その人らしさを大切に”地域の中で普通の生活”を過ごせるよう支援する事を理念とし、出来る限り以前の生活習慣や馴染みの場所を大切にしながら、その人の役割・あり方など個別支援に力を入れております。コロナウイルス対策を行いながら隣接の公園での散歩やゴミ拾いの継続する事で地域の方との挨拶や関りができた。編み物が趣味の方には作品作りなどの支援を行っております。四季を感じて貰えるような生活を大切に、ホーム内の野菜を収穫し料理やおやつ作りをし旬を感じて貰う。2か月ごとに家族や本人の馴染みの店への絵ハガキの作成の継続。ご家族へのお便りの中にホームの様子を写真入りで紹介しており、出来る限り入居者の方へ書いて頂けるよう取り組み、関わる事で状態の変化も良く分かります。ご家族の方との繋がりを大切に考え行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさ」が一番の優先とし生活習慣や地域との関り、積極的な地域参加など心掛けているが、このコロナ禍では限られるが個別支援の在り方をその時々に合わせて行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は難しいが毎日、地域の公園の散歩やゴミ拾いを継続し役割となっている。以前に地域の衣料品店とは移動販売等での繋がりもあり入居者のニーズに合った物の購入も相談できる関係である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出向き地域の方にグループホームを知って頂く機会は減りましたが、地域住民の方と一緒にを行う施設での総合防災訓練や地域に職員が参加し町内の防災訓練に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2ヶ月に1回書面開催での会議を行っている。ホームの様子をより詳しくお伝えできるように心掛けている。又返信にて意見を頂き反映させている。ご意見が活かせるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から疑問点や理解出来ない事があると窓口相談や、電話にて質問し、とても相談しやすい関係である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体での身体拘束の内部研修もあり職員間で周知されており、拘束しないような見守りや介護内容を検討しながらケアプラン作成にも活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体にて虐待防止の研修や委員会参加もある。介助対応に気になる点が見られた際はその都度、説明注意に努めている。年に一度虐待防止チェック表に自己評価し管理者も評価面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体での内部研修や月に一度の権利擁護委員会も行われている。必要性についての話し合いは委員会後カンファレンスにて周知している。家族の方より相談等受けることもあり活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に時間が掛かる為、入居前に疑問点や相談の聞き取りを口頭説明にて行なっている。契約時は項目に沿って丁寧に説明や質問に答えている。契約を取り交わした後も相談に乗れることを伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、運営推進会議を書面開催としている。家族、各関係各所の方からの意見や感想をお知らせしている事も多いので、反映しているのではないかと思います。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファレンスや毎日のミーティングでの意見交換と検討会を行っており、その際各入居者担当への方針や対応など話している。職員の意見を聴く機会には常に開かれており尋ねる職員も多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年勤務評定を行い、専門性などを部署責任者、施設長が評価を行い面談をしている。勤務評定の内容を明確にし法人全体にて賞与等に反映できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内にて新人・中堅・リーダー研修や介護福祉士試験の為の実務者研修やスキルに合った外部研修などの取り組みが行われています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度の市内グループホーム連絡会の参加や外部研修でしか交流がない。前回はコロナ禍の為、書面開催にて行う。系列施設のグループホームとの意見交流会があり密にならない取り組みで行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間を掛け本人の意向、意思、希望など傾聴しその内容をくみ取り配慮する。本人が安心して過ごして頂けるよう心掛ける。他入居者とのコミュニケーションが図れるよう配慮し職員間の情報の共有も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族が困っている事や希望している事などホーム内で要望に応じられるかを検討し、その中で問題解決の糸口を見つけられるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況もある為、自宅かデイサービス等へ訪問し暮らしの状況の把握を行う。本人がホームにてどの様に生活が送れるのかを見極めるように努める。場合によっては他のサービスを勧める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理をしながら味付けや下処理を教わる事で”今度から私が手伝うよ”と職員に声を掛けてくれる。など協力し合う関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来る限りの面会や外出の願いをしているが、コロナ禍では実施できない事もある。情報の共有を電話や通信で行っており、限られた面会時間の中本人に寄り添って頂く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に於いて馴染みの店や場所への外出が困難な中、絵はがきや貼り絵など本人の気持ちをしたため送る事を年4回行っている。相手からも返信が届く。この様な支援を入居者全員に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士のテーブルの配置や作品作りも一人では行わず趣味の合う方など職員が仲立ちとなるように努めている。職員もゆっくりと会話をし、コミュニケーションが取れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設館内(特養・ケアハウス)に移動された方なご家族・利用者など面会時や行事の際に困った事はないか声を掛けております。相談があった際は積極的に対応出来るように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人・家族の希望や意向・生活状況は傾聴しているがホームでの生活の過程で以前の生活習慣の話となる際は職員間で取り組む事が出来るか検討し支援出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時に以前の生活習慣や環境などの聞き取りの際、ご家族や本人の状況の把握に努めている。ホームで過ごす中で以前の馴染みの店や職歴や仕事内容など把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には時系列にて記録が記入でき、その記録にて一日の過ごし方や体調・様子など心身の状態を職員間で共有し、少しでも早い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング・アセスメントを行い、担当職員や家族・本人の意向など参考にしカンファレンスを行いプラン作成に活かしている。プラン実行の為にご家族に協力をお願いすることもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録記入欄に毎日の出勤職員にて気づきを記入し、職員間で共有し毎日のケアプランの達成状況を確認し反省や見直しなど記録している。又その都度状況に合わせ即対応出来る様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中、面会にも制限があるが毎日入居中の親の顔が見たいとの要望があり扉越し面会の実施。又デイサービス利用の妻からの面会希望などあり機会を設ける。その都度柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中の為、地域行事に以前のように参加出来ず、地域の取り組みも行われていない。以前より継続している近隣公園のゴミ拾いは環境資源を守るという本人の意志で継続できる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず入居前に家族へのかかりつけ医の希望や確認を行っている。現在は協力病院が主治医だが、以前よりかかっている認知症専門病院は家族に協力して貰っている。その際状態をまとめ提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の出勤の際、必ず日常の状態や対応内容を細かく報告する。又処置や相談したい事など協力して貰える体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の病院とは日頃から連絡を密に行い相談しやすい関係である。入院した際は1週間に一度のムンテラへの参加も行い、情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化した場合や生活状態に変化が見られ、ホームでの支援の形を変えなくてはならない場合の説明は行っている。その際も家族の気持ちに寄り添えるように努める。又法人の特養や他の転居を支援するなど適切な支援に努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生術や緊急事態に備えた対応についての勉強会もあり、消防士によるコロナ対応の心肺蘇生法の実践講習などの指導を受ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回の防災訓練にて災害対策を行っており、風水害の移動訓練や災害用伝言ダイヤル「171」を利用した訓練に取り組みご家族の方に安心して頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレに入る際は必ずノックし扉は閉めプライバシー保護に努める。呼称は“さん付け”を基本としゆっくり丁寧に会話する様にしている。年に1度の接遇委員会で自己評価しチェックを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴頻度や時間、着替えの際の衣類、おやつや体操参加の意思決定や本人希望の誕生日メニューなど決めてもらっている。個別支援の際も本人の意思の下行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のその人なりのペースは決まっているが、その日の本人の体調や状態に合わせて支援している。“どうしましたか”と聞いて応えられる方ばかりではないので、表情の変化にも気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧している方もいるし起床時に自分の寝癖を整えている人やご自宅で使用されていた髪飾り使用する為に髪の毛を伸ばしている方などいる。行事の際はお化粧を行えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり巻、テーブル拭き、おしぼり配り、料理の下準備などプランに組み込んだり、一人でも多くの方に関わって貰う為におやつ作りにも力を入れている。又同じ方に負担にならないように配慮もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量の表でバランスを見て支援している。体調の変化に合わせて個別対応したり、その人の生活習慣も踏まえ提供時間をずらし提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度歯科衛生士の方に来てもらっていたがコロナ対応の為、書面指導にて口腔維持管理に関わる助言を頂いている。毎食後本人にあった口腔ケア・口腔維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を基に本人に排泄について要望を確認後、職員間で情報共有し自立に向けた支援をしている。夜間リハパンではなく、布パンツにパットと防水シートを利用し不快を無くせるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄チェック表にて排便コントロールに努めている。毎朝食時の乳製品、海藻、乾物などの工夫もしている。腸活の為に歩行運動や水分を必ず摂取するなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望される時間帯や浴槽の温度などその方に合った入浴法を楽しんでもらっている。又本人の体調に合わせて入浴時間等安全に入浴が行えるように努める。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にて休む方もいます、中庭を中心に廊下に数か所ソファーや椅子を設けており、そのソファーに座り”日があたり温かい・気持ちがいい”と言って傾眠している姿があり、安楽の場の一つとなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が変更時期や定期の服用薬の内容をその都度共有し注意点についても申し送る。その後の経過を医師や看護師に報告、相談するよう周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が趣味の方はご家族と相談し手芸用品の準備をお願いしたり、家事が好きな方には料理の準備や洗濯たたみなど行っており、毎日の散歩や新聞取り・ゴミ捨てなど協力して行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出の機会が減り、病院受診の為の外出のみだが、近隣公園や施設周辺の花壇を見に行き散歩など頻繁に行っている。その事が気分転換となっている。また桜を見にドライブにいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設館内の喫茶コーナーでの売店で自分の好きなお菓子をお小遣いで購入できるように支援している。又公衆電話を利用したりしている為、付き添い見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍での対応で窓越し面会やリモート面会を携帯電話を利用し行っている。又家族にも利用のお願いもしている。年に4回季節ごとの絵はがきの作成も継続しており、家族から楽しみにしていますと言われる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出が難しい為、食堂には毎月季節を感じられる飾り付けを行っており、飾る位置も眼に入る高さにセットするなど工夫している。中庭に季節の花や野菜のグリーンカーテンなど、視覚や味覚で季節を感じられる。廊下にはソファがあり寛げる空間である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にもソファがおかれている為そこへ気の合った者同士が座り会話を楽しんでいる。廊下にも作品や掲示物や行事写真など展示している為椅子に座りゆっくりと見ている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご自宅で使用されていた物をホームでも使用して頂けるように家族にお願いをしている。又本人の作品を飾ったり、散歩の際に摘んできた野花を花瓶に飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの看板を大きくしたり、本人の目線の高さに合わせて表札に変更するなど、目線に合った居室での動線の確保と工夫で安全に過ごせるようにしている。迷わない環境づくりに努めている。		